

## 科学研究費助成事業 研究成果報告書

平成 29 年 6 月 21 日現在

機関番号：32606

研究種目：挑戦的萌芽研究

研究期間：2013～2016

課題番号：25580149

研究課題名（和文）移民アーカイブズの標準化モデル構築に向けての実践的研究：日系ブラジル移民を対象に

研究課題名（英文）An Archival Study to Build Immigration Archives : For the Archives of Japanese Immigration to Brazil

研究代表者

青木 祐一（AOKI, Yuichi）

学習院大学・文学部・講師

研究者番号：50632676

交付決定額（研究期間全体）：（直接経費） 2,800,000円

研究成果の概要（和文）：本研究は、ブラジル日本移民について、民間レベルでの移民事業に関わった機関・団体、もしくは移民個人によって作成・授受・収集・蓄積された記録資料群（アーカイブズ）を対象に、アーカイブズ学の手法を用いた整理・編成・記述・保存、利活用および公開方法の検討を通じて、「移民アーカイブズ」の構築を目指すものである。

主たる調査対象として、国内は戦前・戦後を通じてブラジル移民事業を推進した日本力行会（東京都練馬区小竹町）、海外はブラジル日系知識人層が創設した民間の研究機関であるサンパウロ人文科学研究所に残された個人資料について、アーカイブズ学の手法に基づく、目録記述および編成・体系化をおこなった。

研究成果の概要（英文）：In this study, we aimed to build the immigration archives of Japanese immigration to Brazil through appraisal, organization, description, preservation and utilization by archival science method. The main analysis targets are the two cases.

(1) Nippon Rikkokai (Tokyo, Japan)

(2) Center for Japanese-Brazilian Studies (Sao Paulo, Brazil)

研究分野：アーカイブズ学

キーワード：アーカイブズ学 移民アーカイブズ ブラジル日本移民 移民史 日本力行会 サンパウロ人文科学研究所

## 1. 研究開始当初の背景

日本における移民史研究は、満州移民や、ハワイ移民、北米移民に関する研究は盛んである一方、南米移民に関する歴史学の観点からの実証的な研究は少ない。例えば、『ブラジル日本移民：百年の軌跡』(丸山浩明編、2010年)において提示された問題意識は、「何故、ブラジル移民研究は独自の研究分野として確立していないのか」という、研究分野としての存在意義を問うものであった。

ブラジル現地についてみれば、移民自身による回顧録、移住地や日系団体ごとの年史・記念誌類の編さんは盛んに行われているが、その記述の元となった記録資料の保存・利用体制は極めて脆弱な状況にある。

一方、日本国内についてみれば、人類学や社会学の観点からの研究はみられるものの、一次資料を用いた歴史学研究が極めて少ない点が指摘できる。したがって、ブラジル日本移民史が研究分野として確立し、発展するためには、まずは関係する一次資料を把握し、それらを利活用できる体制を整えることが前提であり、急務といえる。

本研究では、日本、ブラジル両国における日本人移民関係のいくつかの記録資料群、特に国の事業としてではない個人レベルでの渡航と、それを支援・受け入れた民間組織において生成された民間レベルの資料群に着目する。これらの資料群にアーカイブズ学的手法を用いた分析を加え、ブラジル日本移民に関するアーカイブズの構造的特質の解明と、アーカイブズとしての有用性について検討する。

日本国内については、記録資料群の概要把握、詳細な目録作成と構造把握を踏まえた上での目録編成、保存および利活用の方法について検討する。一方、ブラジル側の資料については、資料群全体の概要を把握し、その特質を解明した上で、移民アーカイブズとしての利活用の方法について検討し、次の段階の研究に備えるものとする。その上で、両者の分析結果を総合し、ブラジル日本移民に関するアーカイブズ構築の標準化モデルを確立し、その有用性、発展可能性の提示を行う。

本研究の特色は、アーカイブズ学的アプローチを用いることである。歴史学の視点による個々の資料、テキストへの着目ではなく、資料を「群」として捉え、コンテクストを分析することで、移民資料の全体像と特質が見えてくる。その上で、移民資料をアーカイブズとして保存・利活用するための標準化モデルを構築し、他事例へ適用可能な方法論を確立する。また、ブラジル日本移民に関する「移民アーカイブズ」を構築することにより、以下の3点を実現する。

(1) 研究者への研究素材を提供する方法をアーカイブズ学的手法を用いて検討・提示すること。

(2) 関係組織における資料の保存と利活用の方法を検討・提示すること。

(3) アーカイブズを通じてブラジル日系コミュニティにおける文化とアイデンティティ継承に寄与し、日本語資料の散逸を防止すること。

移民アーカイブズの構築作業を通じて、日本、ブラジル双方に移民資料の重要性と有用性の再認識を促し、両国における研究の橋渡しをすることがねらいである。

## 2. 研究の目的

アーカイブズ学とは、人間のあらゆる活動を通じて生成される記録を、「社会の共同記憶」として適切に保存し、新たな創造的な活動のための有用な情報資源として活用する方法を探求する学問である。本研究では、このアーカイブズ学の方法論をブラジル日本移民に関する記録資料群に適用することによって、「移民アーカイブズ」という新たな視点と方法論を提起する。

その上で、何故、ブラジルを対象とするのか？日本人移民百年(2008年)を経た現在、最初の日本人移民がブラジルへ渡航してから100年以上が経過している。現在のブラジルの日系社会では移民1世がごく少数となり、日本語を理解する者の減少により、現地に残された日本語資料に対する認識は低下する一方である。したがって、これからの移民史研究では、文字として書かれた記録資料を用いた実証的な歴史学研究が重要になると考えられる。

また、ブラジルにおける日系社会の希薄化、脱日本語化の状況から、コミュニティの共同記憶の再生産とその継承が極めて困難になっている。したがって、ブラジル日本移民をめぐる記録資料をアーカイブズとして保存し、利活用をはかることは、移民史研究を進める上で喫緊の課題なのである。

本研究では、こうした現状を踏まえ、移民史研究および日系コミュニティにおける文化とアイデンティティの継承に資するためのアーカイブズ構築を目指す。現在のブラジル日本移民史研究の抱える問題点として、以下の3点が挙げられる。

(1) 日本・ブラジル両国の歴史学研究の中にきちんと位置づけられていないこと。

(2) 研究の基礎となる記録資料類が体系的に提供される体制が整っていないこと。

(3) 日本・ブラジル間における情報と研究の連携が不足していること。

移民という個人の私的活動に伴って発生する記録は、「国家の記録体系」からこぼれ落ちる存在であり、公的保護の対象から外れてしまうものである。日本、ブラジル双方の民間レベルの資料群を対象とすることで、国家レベルの記録からは見ることのできない、移民個々人の渡航をめぐる状況や動機、渡航前から渡航後までの姿、それを支えた組織・団体の動向も見えてくる。

本研究は、上記の問題点について、アーカイブズ学的アプローチによって新しい展望

を開くものである。その特徴と意義として、以下の点が挙げられる。

1 点目は、アーカイブズ学的アプローチと歴史学的アプローチの融合、つまり移民史研究の基盤となる研究素材を提供するための実践的研究を行うことである。移民史研究の基礎となる記録資料群の構造および特質を解明し、これらを体系的に保存・提供する方法を確立することで、移民史研究の進展に資することができる。

2 点目は、公的組織の把握外にある移民の動向について捉えるために、日本・ブラジル両国の民間レベルの資料群を対象とするアプローチである。例えば、JICA 移住資料館において行われている「移住資料ネットワーク化プロジェクト」における対象は、あくまで公的機関となっている。本研究では、国家レベルではなく、キリスト教団体、移殖民学校、移民会社などの移民を送り出した民間レベルにおける組織と、ブラジルの移民組織、植民地の団体などの受入側や移住後の組織という、送受双方の民間レベルの組織を対象とすることで、個人の活動とそれに伴って生成される記録資料の特質について解明する。

3 点目は、アーカイブズ学の理論と実践を踏まえて、アーカイブズの標準化、制度および手続き面などの検討と整備を行うことによって、移民史研究とアーカイブズ学研究の連携を探る点である。資料群の概要把握、内容把握、構造分析と目録編成、永続的保存措置、利活用の方法の確立という、一連のアーカイブズ学の手法を加えることによって、歴史資料としての把握から、アーカイブズとしての利活用への道筋をつけることが可能となる。

4 点目は、保存科学の考えやデジタル技術を用いることで、資料の永続的保存方法を確立し、移民資料の可便性、利便性を向上することである。単なる資料研究ではなく、資料の保存やデジタル化による提供といった、保存と公開・利用の観点を加えることで、アーカイブズとしての持続性、利便性も高められる。

移民アーカイブズを構築し、他事例へも適用可能な専門アーカイブズとしての標準化モデルを確立することは、同様の資料群を所蔵する組織等にアーカイブズ構築のための方法論を提起するとともに、学問的貢献だけではなく、国際協力、国際貢献といった点にも資するものと考えられる。

### 3. 研究の方法

本研究では、日本・ブラジル両国における日本人移民に関係する具体的な資料群、特に国の事業としての渡航ではない個人による移民と、それを支援した民間組織において生成された複数の資料群を分析の対象とし、ブラジル日本移民アーカイブズの構築を行う。分析視覚として、アーカイブズ学の手法を用いる。つまり、資料群全体の概要把握、個々

の資料の内容把握、資料群の構造分析、保存および利活用の方法の検討という段階的調査方法を適用することによって研究レベルを段階的に深化させ、効率的な調査と研究の体系化を行う。その上で、資料群の特質を解明するとともに、アーカイブズとして保存・利活用していただくための道筋と標準化モデルを確立する。

アーカイブズ学における段階的調査法とは、一次調査、二次調査、それを踏まえた研究展開と、段階を追って調査・研究を進めていく手法である。つまり、資料群の概要把握、内容把握、構造分析と目録編成、保存措置、利活用の方法の検討という一連の過程を経ることによって、資料群をアーカイブズとして体系的に利用することができる環境を整えるとともに、資料群の特質を解明するものである。

本研究では、アーカイブズ学の手法を用いて、ブラジル日本移民に関するアーカイブズの構築を行う。具体的な素材として、以下の2つの資料群を主たる対象として設定した。

(1) 学校法人・日本力行会(東京都練馬区小竹町): 日本力行会は島貫兵太夫が設立した「霊肉救済」を掲げるキリスト教団体である。2代目会長であり、ブラジル移民事業を積極的に推進した永田稔(ながた・しげし)に関する一次資料「永田文書」は、文書資料約1,200点(段ボール箱15箱)と写真、地図、物品類から成り、現在は同法人の資料室で保管されている。研究等に体系的に利用できるようにはなっておらず、保存状況も良好とは言えない状態であった。

(2) サンパウロ人文科学研究所(ブラジル・サンパウロ市サン・ジョアキン街・ブラジル日本文化体育協会ビル): サンパウロにおける日系インテリ層のサロンであったサンパウロ人文科学研究所には、戦前からの「コロンニア知識人」資料約200箱程度が未整理のまま保管されている。当該資料群は日系社会における文化・芸術活動を知る上で貴重な資料であり、日系コミュニティの側においてもその保存と活用は大きな課題となっている。その一方、資料を専門に扱う専門家が現地にはおらず、保存と利用の観点から大きな課題となっている。

上記の状況を踏まえ、それぞれの資料群について、所在および概要把握、個別資料の内容把握とデータ整理、構造分析に基づいた多角的検索が可能な目録編成、長期保存のための保存措置、利用提供方法の検討までを一連のものとして、段階を踏んだ調査を行う。具体的には各資料群について、以下のような調査を実施した。

(1) 日本力行会については、既に作成されていた目録をベースに補足調査を行い、目録編成を行って資料の体系的な利用が可能となる条件を整える。その上で、保存容器の入れ替え等の保存措置を行い、長期的な保存と利用に耐えうる環境を整備し、資料のデジタ

ル化および公開条件等についての検討を行い、法人に対してアーカイブズ構築のための提案を行う。

(2) サンパウロ人文科学研究所については、概要調査を実施し、どのようなものがどの程度の量存在するのかという概要目録を作成する。その際にはアーカイブズ学における「集合的記述法」を用い、群レベル、ユニットレベルで概要を記述し、保存措置を施して今後の利用に備えるものとする。その上で、二次調査の方針やデジタル化、公開等の方法を検討し、研究所に対してアーカイブズ構築に向けての提案を行う。

#### 4. 研究成果

本研究は、ブラジル日本移民関係資料について、民間レベルにおける移民事業に関わった機関・団体、もしくは移民個人によって作成・授受・収集・蓄積された記録資料群（アーカイブズ）を対象に、アーカイブズ学の手法を用いた整理・編成・記述・保存、利活用および公開方法の検討を通じて、最終的には「移民アーカイブズ」の構築を目指すものである。対象のアーカイブズ資料群として、国内・海外から特徴的な組織を選定し、調査を実施した。

##### (1) 日本力行会

国内調査については、主たる調査対象である学校法人・日本力行会（東京都練馬区小竹町）の2代目会長であり、戦前・戦後を通じてブラジル移民送出事業および移殖民教育を推進した永田稔（ながた・しげし）の記録である「永田文書」について、ファイル・アイテムレベルでの目録記述（約500ファイル・1,600件）が完了した。これ以外に、写真資料約3,000点がある。

資料群は大きく、移民送出機関としての日本力行会および移殖民学校に関するもの、ブラジル・アリアンサ移住地に関するもの、満州力行村開設に関するもの、著作・日記など永田個人に関するもの、に分けられる。

特に永田が中心となって計画が推進されたブラジル・アリアンサ移住地（サンパウロ州ミランドポリス郡）について、現地からの報告書および永田と現地との往復書簡は貴重な資料である。

##### (2) サンパウロ人文科学研究所

海外調査については、ブラジル・サンパウロでの調査を計4回実施し、調査対象であるサンパウロ人文科学研究所へ寄贈された「コロナ知識人」の資料群について、寄贈者ごとに箱単位での概要調査（17資料群・約200箱）をほぼ完了させることができた。

サンパウロ人文科学研究所（Centro de Estudos Nipo-Brasileiros）は、ブラジルの日本人移民史、日系人・日系社会に関する調査研究を行う公益団体として、1965年に設立された民間の研究機関である。

研究所では、所蔵する図書・雑誌資料については独自の分類体系に基づいてデータベース管理がされている一方、文書資料については受入れ時の記録も目録も作成されておらず、利用提供は担当者の記憶に基づいておこなわれている状況であった。

したがって今回の調査では、これら資料群の概要目録を作成し、最低限の閲覧提供に資するための基礎データを作成することとした。実際には、出所情報、資料概要、年代、形態、数量などの概要情報を、現在収納されている箱単位のレベルで記録した。

調査の結果、2016年9月段階で17名より寄贈された資料群が存在することを確認したが、出所が不明な資料も存在する。これは、人文研自身が過去に『八十年史』や『年表』などを編さんした際に収集された資料ではないかと考えられる。また、その際に発生した企画段階の資料や原稿なども多数含まれている。その他、日系コミュニティにおける文化・芸術活動に関する資料群、組織の役員経験者の資料には、各活動や組織運営に関わる資料、移民史料館立ち上げ時の資料などが含まれる。

##### (3) その他

以上に加えて、日本国内では、永田稔が幹事として事業に深く関わった信濃海外協会関係資料を所蔵する長野県立歴史館（長野県千曲市）、ブラジル・トメアス移住地へ混血孤児を移民として送出した澤田美喜のエリザベス・サンダースホーム（神奈川県大磯町）、「ブラジル移民の父」と呼ばれる水野龍が設立した竹村殖民商館に関する資料を所蔵する高知県立図書館（高知県高知市）および高知県立歴史民俗資料館（高知県南国市）の調査を実施した。

ブラジルでは、戦前に長野県から北海道を経てブラジルへ移住し、孫の代に日系組織の役員を輩出した家の個人文書を確認した。また、研究協力者の岡村淳氏の紹介により、戦前移民で植物学者の橋本悟郎氏が設立したサンパウロ博物研究会を訪問し、同会の前進であり、日系社会において自然科学研究を推進した「栗原自然科学研究所」の考古学・天文学・人類学・民族学関係の資料を調査した。同研究所については、国立国会図書館憲政資料室にも出所を同じくすると思われる資料が所蔵されており、両者の関連性について解明が望まれる。

加えて、ブラジル日本移民をめぐる記録映像という観点から、ブラジル日本移民を対象とした記録映像作品を制作し、自らもブラジルへ移住した経験をもつ映画監督の岡村淳氏を講師として、講演会および記録映像の上映会を計3回実施した。

本研究では、日本・ブラジル両国における特徴的な移民関係資料を「移民アーカイブズ」として体系化し、研究資料として利用提

供するための基礎的な作業を完了した。ブラジル日本移民史について解明するためには、送り出した側（日本）、受け入れた側（ブラジル）双方に残された資料を結びつける必要がある。本研究は以上のような課題に対し、日本、ブラジル両国における研究の進展と資料保存の重要性を訴えかけるという意味において、一定の成果を上げることができたものとする。

今後はこれらの資料群の多角的な利用を可能とするための公開・利活用の方法について、また他の資料群への適用方法について、引き続き検討していきたい。

#### 5. 主な発表論文等

（研究代表者、研究分担者及び連携研究者には下線）

〔雑誌論文〕(計1件)

青木 祐二、ブラジル・サンパウロ人文科学研究所資料調査・中間報告、学習院大学大学院人文科学研究科アーカイブズ学専攻研究年報 GCAS Report、Vol.5、2016、123-127、査読無

〔学会発表〕(計1件)

青木 祐二、名村優子、ブラジル日本移民関係資料をめぐる現状と課題：「移民アーカイブズ」の構築に向けて、日本アーカイブズ学会、2015年4月26日、東京大学(東京都・文京区)

〔その他〕

学校法人日本力行会・ウェブサイト

<http://rikkokai.or.jp/>

サンパウロ人文科学研究所・ウェブサイト

<http://www.cenb.org.br/>

#### 6. 研究組織

##### (1)研究代表者

青木 祐一 (AOKI, Yuichi)

学習院大学・文学部・講師

研究者番号：50632676

##### (4)研究協力者

名村 優子 (NAMURA, Yuko)

立教大学大学院・文学研究科

・超域文化学専攻・博士後期課程

岡村 淳 (OKAMURA, Jun)

記録映像作家

阿久津 美紀 (AKUTSU, Miki)

学習院大学大学院・人文科学研究科

・アーカイブズ学専攻・博士後期課程

高科 (広瀬) 真紀

(TAKASHINA (HIROSE), Maki)

国文学研究資料館